こよみ
Vol.212

金利上昇局面における金融資産との付き合い方

アセットマネジメント(am)をムーヴ(move)する
amova
アモーヴァ・アセットマネジメント

Koyomi コールセンターからの、小さなよみもの　2026年9月30日　ご参考資料

9月18日、日本銀行は政策金利を1.25%程度へ引き上げることを決定しました。新たな金利水準は9月24日から適用されています。日本では約31年ぶりとなる高水準の政策金利であり、「金利のある世界」が一段と進んでいます。

政策金利の引き上げは日本だけの動きではありません。米国や欧州でも利上げが行なわれるなど、主要国では金融引き締めの動きがみられています。

金利が上がることによる資産運用への影響は一様ではありません。そこで今回は、**「金利の上昇」がそれぞれの資産にどのような影響をもたらすのか**を、整理してみたいと思います。



そもそも「政策金利」とは？

政策金利とは、中央銀行(日本では日本銀行)が物価の安定を図るために設定する基準金利です。景気が過熱して物価上昇が進みすぎる場合は利上げを行ない、企業や個人のお金の借入を抑えることで景気の過熱を抑制します。一方、景気が低迷している場合は利下げを行ない、借入や投資、消費を促して景気を下支えします。

政策金利は金融機関同士が貸し借りをする際の短期金利(無担保コール翌日物金利)に直接影響し、預金金利や住宅ローン金利、企業の借入金利などを通じて、私たちの生活や企業活動、さらには株式や債券、REIT(不動産投資信託)などの金融・為替市場にも幅広く影響を与えます。

政策金利の役割と市場への波及

中央銀行が政策金利を決定

物価や景気の状況を判断し、中央銀行が金融政策に基づき政策金利を決めます。

短期金利を誘導

金融機関同士の短期金利(無担保コール翌日物金利)を誘導し、市場金利に影響を与えます。

家計や資産価格などへ波及

市場金利の変化は、預金やローン、企業活動のほか、金融・為替市場にも幅広く影響を及ぼしていきます。

※政策金利の変更が、預金金利や住宅ローン金利、金融資産の価格に反映される時期や影響の大きさは、それぞれ異なります。
※長期金利は景気や物価の見通しなども織り込んで決まるため、政策金利と必ずしも同じように動くわけではありません。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社
2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

金利が上がるとどうなる？

一般的に、市場金利が上がると預貯金などの利息は増える一方で、個人や企業がお金を借りる際の負担は大きくなります。金利は、値動きのある金融資産の価格や為替を動かす要因の一つです。金利上昇はどのような影響をもたらすのか、整理してみましょう。



一般的な考え方について、ポイントを絞ってお伝えします。

金利上昇による各資産への影響

株式

- 金利上昇によって企業の借入コストが増えると、利益を圧迫し、企業業績の重しとなる場合があります。ただし、利上げの背景に景気回復や需要の拡大がある場合には、売上や利益の増加が金利上昇の影響を上回ることもあります。
- また、業種や個別企業によっても影響はさまざまです。例えば金融機関は、貸出金利の上昇による利ざやの改善への期待などから、金利上昇の恩恵を受けやすい業種の一つとされています。

企業ごとの財務体質や事業内容によって影響度合いも異なります。



債券

- 金利が上昇すると、既に発行されている債券は、新たに発行される、より利回りの高い債券と比べて相対的な魅力が低下するため、価格が下がることがあります。
- なお、投資信託を通じた債券投資の場合は、受け取った利息や償還金などを、より利回りの高い債券に再投資できるようになります。そのため、投資期間が長くなるほど、利息収入や再投資の効果が積み上がり、当初の価格下落の影響を補うことも期待できます。

逆に、金利が下がると既存債券の価格は上がります。「シーソー」のような関係です。



REIT

- REITは、投資家から集めた資金で不動産に投資し、主に賃料収入などから得られる利益を投資家に分配する金融商品です。物件の取得や運営のために借入を活用することが多く、金利が上昇すると資金調達コストの増加が意識され、価格が下がる傾向があります。
- 一方、インフレ局面で賃料の上昇や不動産需要の拡大によって収益が改善する場合には、金利上昇によるマイナスの影響が和らぐ可能性があります。

REITは相対的に高い分配金利回りが特徴です。



為替

- 日本と海外の金利差は、為替レートが動く要因の一つです。日本の金利が相対的に高くなると、円建て資産の利回りを求めて海外から資金が流入しやすくなり、「円を買う」動きにつながることがあります。その場合、為替市場では円高方向に動く要因となります。
- ただし、為替は景気や物価、国際情勢、他国の金融政策などの影響も受けるため「日本の利上げ＝必ず円高」とは限りません。

為替は特に一筋縄ではいかなそうです。



当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

価格変動は金利だけでは語れない

「金利が上がるなら、今は株式やREITへの投資は控えておこうかな」と考える方もいるかもしれません。しかし、実際の市場はそれほど単純ではなく、金融資産の価格は金利だけで決まるものではありません。もちろん短期的に金利の影響を受ける可能性もありますが、そのほかにも景気、企業業績、物価、海外市場の動向、為替などのほか、REITでは賃料や不動産需要など、さまざまな要因が作用します。

資産運用で大切なのは、長期にわたって投資を続けられること

金利上昇は、市場環境の変化を示す要素の一つに過ぎません。また、将来の金利や景気を正確に予測し、短期的な値動きを当て続けることは非常に難しいものです。

だからこそ大切なのは、一時的な市場の変動に振り回されず、自分に合った方法で投資を続けること。また、一つの資産に偏らず、値動きの異なる複数の資産に分散して投資することは、ポートフォリオ全体の価格変動を抑えるうえで有効な選択肢の一つです。

長期的な視点で世界経済や企業の成長を取り込みながら、無理なく続けられる資産運用を実践していきましょう。



コールセンター
0120−25−1404
営業時間 平日 9：00-17：00



関連テーマのバックナンバーもチェック！

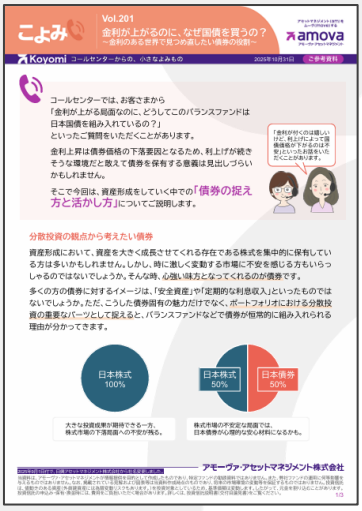


Vol.203 「金利のある世界」で検討したい日本株のアクティブファンド

https://www.amova-am.com/files/guide/koyomi/pdf/koyomi_vol-203.pdf

Vol.201 金利が上がるのに、なぜ国債を買うの？ ～金利のある世界で見つめ直したい債券の役割～

https://www.amova-am.com/files/guide/koyomi/pdf/koyomi_vol-201.pdf



当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。